

第4学年1組 国語科学習指導案

指導者 森 康

1. 題材名 一つの花

2. 題材について

(1) 題材観

この題材は、以下の内容を受けて構成されている。

「話すこと・聞くこと」

・互いの考えの共通点や相違点を考えながら、話し合うこと。

A (1) オ

「読むこと」

・内容の中心や場面の様子がよく分かるように音読すること。

C (1) ア

・場面の移り変わりに注意しながら、登場人物の性格や気持ちの変化、情景などについて、叙述を基に想像して読むこと

C (1) ウ

・文章を読んで考えたことを発表しあい、一人一人の感じ方について違いのあることに気付くこと。

C (1) オ

『一つの花』は、時代背景やゆみ子の家族の生活の様子が描かれている冒頭部分、お父さんとの悲しい別れが描かれている物語の中心部分、そして、10年後のゆみ子の生活が描かれている結末部分というわかりやすい場面に分かれて物語が展開している。

『一つの花』の主題は、「どんな状況の中でも、わが子への限りない愛情を注ぎ、戦時中という過酷な状況の中で、わが子の成長を案じ憂う両親と、その愛情を受けてけなげに生きていくゆみ子の姿」である。

戦争のために一つの喜びすらもかなえられそうにないわが子に、ありったけの心を込めて「一つの花」を手渡し、戦争に行かなければならない父。そして、その父の言い尽くせぬ思いを受け止めて見送る母と子。時代の荒波に翻弄されながら懸命に生きていく親子の姿がある。

本作品では、幼いゆみ子に対する両親の気持ちが「一つだけちょうだい。」という言葉を通して描かれているが、豊かな時代に生まれ育った児童にとって、「一つだけ」というゆみ子の言葉をそのまま受け入れることは難しい。ゆみ子の「一つだけ」という言葉や我が子の将来を心配する気持ちを、歴史的・社会的な状況を考えながら読み味合うことで、いつの時代でもどんな状況下でも、両親が我が子の健やかな成長を願うことは普遍的なことであることに気づき、親の子どもに対する愛情を本作品から感じ取ってほしいと思う。

(2) 小中一貫教育の視点から

鴨川市で取り組んでいる小中一貫教育の「A 話すこと・聞くこと」の領域の「話し合う」では、『自分の意見を持ち互いの相違点や共通点を考えながら話し合うことができる子』の育成を目指している。よってこの題材では、「理由となる言葉をあげながら、気持ちを説明することができる」、「自分の考えとの相違点に気をつけて聞くことができる」ことを身につけるべき力と考え指導する。

また、「C 読むこと」の領域では、前期が終わる時までには、『段落相互の関係や場面の移り変わりを考えて読むことのできる子』の育成を目指す。

(3) 児童の実態 (男子12名 女子11名 計23名)

本学級の児童は、明るく元気であるが、けじめをつけることができない子どもが多く、聞くことが苦手である。また、休み時間などの様子でも、自分勝手な行動や友だちを傷つけてしまう発言をしてしまう児童も数名おり対人関係における些細なトラブルを数多くあるので、けじめをつけることの大切さと相手のことを思いやることの大切さを重点的に指導している。

学習中の様子の「話すこと」については、事前に準備しているものについては、ほとんどの児童が発表することができるが、普段の学習の場面での自発的な発表というのは、限られた児童しかできない実態があるので、授業の中で自分の考えを書く時間を意図的に取るようにしている。

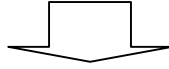
「聞くこと」については、集中して聞くことが苦手な児童が多いので、授業中に「鴨小みんなの約束」の聞き方の話す人を見て最後まで聞くの指導をしている。話し手も同様に「呼ばれたら返事」と「最後まで話す」を継続して指導している。また、答えを聞く時には、発表の最後に「どうですか」と付け加えさせることで聞かせる工夫を話し手にさせている。

4月に学習した「やい、とかげ」では、自分の考えをノートに書いてから発表させることで、少しずつ発表できる児童が増えてきたが、自分の考えを整理しきれない児童もいた。また、自分の発表で精一杯なので、友だちの考えとの相違点を見つけることができる児童は少ない。

(4) 指導観

題材目標とめざす子ども像（話し合う）との関連

○互いの考えや相違点や共通点を考えながら、進んで話し合うことができる。 (話すこと・聞くこと)
この題材目標は、以下の目指す子ども像に関連している。



自分の意見を持ち互いの相違点や共通点を考えながら話し合うことができる子。

【育てたい力】

次のような言葉話し合いの中で使えるようにさせたい。

○～から～とと思いました。 ○～に似ていて～です。 ○～さんと違う考えで～

また、話し合いをすることで、(新しい発見をする)(互いの意見を比べる) ことを子ども達にさせたい。

〔進んで話し合う姿の具体像について 前期・3, 4年〕

ステップ1 自分の考えとそのわけを話す。(話すこと)

ステップ2 話し手の言いたいことは何か考えながら聞く。〔反応・質問・感想〕(聞くこと)

ステップ3 相手がわかりやすいように筋道を立てて話す。(話すこと)

ステップ4 自分の考えと友だちの考えとの相違点を見つけ発言することができる。(話し合う)

ステップ5 話し合いから新しい発見をすることができる。(話し合う)

今回の題材では、ステップ4までの到達を重点目標として、前期終了までにステップ5まで到達できるようにする。

『一つの花』で読み深めたいこと

本題材は、戦時中という過酷な時代に生まれ、生きたゆみ子への、両親の深い愛情が丁寧に描かれている。戦争を理解できないあどけないゆみ子の姿、厳しい状況でも、精いっぱいゆみ子を思う両親。それぞれの立場を考えながら作品を味わわせたいと思う。

本題材の目標は、時代の状況や人物のおかれた立場を考えて、登場人物の気持ちや願いを想像して読むことができるである。ここで上げられている登場人物の思いや願いとは、お父さんやお母さんのゆみ子に対する思いや願いであると考え。そこで両親のゆみ子に対する思いや願いをより想像して読めるように以下のように留意して読み深めたいと思う。

〔両親のゆみ子に対する思いを行動や会話文などから想像させる。〕

両親の会話文や行動からその時、どんな思いを抱いたかを考えさせることで、両親のゆみ子に対する思いや願いを想像させたい。また、場面ごとの会話文や行動の描かれ方から、その時々両親の気持ちの変化にも触れられるようにしたい。

〔表現の特徴から作品を読み深める。〕

以下のような文末表現・副助詞にも着目させることでより作品を読み深めたいと思う。

- ①強調の文末・副助詞「だの・しか・～のです・」
強調の文末・副助詞を使うことでその時の様子をより鮮明に表している。
- ②疑問形による読者への問いかけ「～でしょうか・かもしれません」
疑問形による文末を使うことで、その場面や登場人物の様子を想像しやすくしている。
- ③会話文中の「……。」
この「……。」は、両親のゆみ子に対する思いを表している。
- ④比喩表現「まるで戦争になんか行く人ではないかのように」
「わすれられたようにさいていたコスモスの花」「まるで何かお話をしているかのように」
比喩表現からその時の家族の様子や思いを想像させやすくしている。
- ⑤文末表現「～てしまいました」

「～てしまいました。」の文末は、1場面の「戦争の中に生まれたゆみ子と父母の心配」と2場面の「父の出征」で6回出てくる。

1場面「お母さんの口ぐせになってしまいました。」「ゆみ子は～覚えてしまったのです。」

2場面「ゆみ子は～駅に着くまでにみんな食べてしまいました。」「ゆみ子はとうとう泣きだしてしまいました。」「お父さんが、ぷいといなくなりました。」「お父さんは～汽車に乗って行ってしまいました。」

この文末は、困ったこと、残念なこと、あってはならないことを表している。

●お母さんは「一つだけよ」などと言いたくない。しかし、戦争で食料が乏しい中、こんな言葉を繰り返し口にせざるをえない。その結果、「お母さんの口ぐせになってしまった」と言える。

そして、この作品の決定的な「～てしまいました。」は、2場面の最後「お父さんはそれを見て、にっこり笑うと、何も言わず汽車に乗って行ってしまいました。」である。

幼いゆみ子から、幼い子をかかえた母親から、お父さんを切り離すことなどあってはならないことを「～乗って行ってしまいました。」に表現されている。

つまりこの作品における文末「～てしまいました。」は、戦争中における生活の困難さ、そのゆがみ、その悲しみを表している。そして、3場面の「十年後のゆみ子」では、この文末は、1つも出てきていないことから幸せな様子が表されている。

〈仮説との関わり〉

仮説1

物語文をてがかりに話し合うための手だてを工夫していけば、言葉を大切にしたい話し合いをすることができ、進んで話し合う子が育つだろう。

〔書き込みノートに自分の考えを書き込むことで自分の読みを持つ〕

書き込みの視点を父親と母親の2つに分ける。

○父親のその時の思ったことや感じたことが表れているところ（会話・行動・様子）に、青で線を引き自分の考えを書き込む。

○母親のその時の思ったことや感じたことが表れているところ（会話・行動・様子）に、赤で線を引き自分の考えを書き込む。

○強調、疑問、「・・・」、比喩表現、「～てしまいました。」の文末表現・副助詞から自分が感じ取ったことを書き込む。これらの表現は、授業中の発問で子ども達に示し考えさせる。

自分なりの読みを持つために、書き込みノートに書き込む時間を十分確保する（全体計画4時間目・朝自習の時間など）。また、書き込みに慣れてきたら授業で読み取ったことや、新しく気づいたことなどを自由に書き込ませていく。そして、授業を通して一人一人の読みを伝え合えば、作品を深く読み、言葉を大切にしたい話し合いをすることができると思う。

〔授業の最後に感想を書き、話し合いの内容を深める〕

今日の授業で思ったことや考えたこと話し合いで気づいたこと等をワークシートに書かせることで、本時の内容の読み深めと自分と友達の考えの相違点や自分の意見の変容などに気付くことができ、次時の授業への意欲と話し合うことの良さを実感できると考える。

〔フリートークを行うことで、話し合いに必要なスキルを育てる〕（日常実践より）

フリートークの流れについて

①話題提供者がみんなに話題を提供する。→②話し合い活動（3分）→③話題提供者がみんなの意見をまとめる。（どんな意見が多かったか、みんなの意見から気づいたことをまとめの中に入れる）④振り返りをする。（発表でよかった所や気づいたこと等）

話題は、「情報提供型」「想像型」「悩み型」「対立型」の中から選ぶ。

話し合いの時には、「～から～と思いました。」「～に似ていて～です。」「～さんと違う考えで～」等の言葉を使って発表させることで、自分と友だちの考えの相違点に意識が持てると考える。

話し合いを活性化させるためには、言葉で話す・聞く技術と共に仲間関係も大事になってくる。そこで、フリートークを継続して行うことで、「言葉で話し合う力」の育成と同時に、「共感的で温かい仲間関係」を作っていけると考える。

仮説 2

話しやすい場の工夫をしていけば進んで話し合う子が育つだろう。

【スキルカードを活用することで「話し合う」のスキルアップを図る】

「話すこと・聞くこと」のスキルカードを提示することで、目当てををしっかり持って友だちの話を聞くことができ、自分の考えと友だちの考えの相違点に気づくことができると考える。本時は、「～から～と思いました。」「～に似ていて～です。」「～さんと違う考えで～」のカードを提示する。

3. 題材目標について

- 進んで作品を読み、自分の考えや思ったことを話し合ったり書いたりしている。 (関心・意欲・態度)
- 互いの考えや相違点や共通点を考えながら、進んで話し合うことができる。 (話すこと・聞くこと)
- 時代の状況や人物のおかれた立場を考えて、登場人物の気持ちや願いを想像して読むことができる。 (読むこと)

4. 指導計画 (12時間)

時	主な学習活動と内容	留意点	評価
	<ul style="list-style-type: none"> ・戦争当時の暮らしの様子を調べ発表会を行う。 ・「ちいちゃんのかげおくり」の読み聞かせを行い、感想を伝え合う。 	<ul style="list-style-type: none"> ○事前に戦争当時の生活の様子の調べ学習しておく。 ○当時と今の暮らしの様子の違いを捉えさせる。 ○読み聞かせ後、教室に戦争をテーマにした物語の本を置き『一つの花』の世界に入り込み易くする。 	<p>※調べたことを進んで発表することができたか。</p> <p>(関・意・態) 発表, ノート</p>
読みを深めるための意欲付けをする	<ul style="list-style-type: none"> 1 全文を通読して分からない言葉等の意味調べを行う。 2 3 ・場面分けをすることで、物語の構成をつかませる。 ・感想をノートに書く。 ・感想を話し合い、作品の世界を広げる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○分からない言葉や新出漢字に印をつけながら、一人で黙読をする。黙読後に印をつけたものを辞書を使い調べさせる。 ○教師のあとについてみんなで音読させ文章構成をつかませる。 ○場面を分ける時に、時を表す言葉、場所を表す言葉、できごとに着目させ、文章が7つの場面に分かれていることをつかませる。 ○心に残っているところに線を引きながら黙読させる。 ○心に残った表現や場面、登場人物について思ったことを感想に書き発表し合うことで、自分の感想との共通点や相違点を気づかせる。 ○感想からみんなで読み深めたいこと(疑問やその時の登場人物の思い)を話し合わせ、毎時間のおおまかな読みのめあてを考えさせる。 	<p>※分からない言葉や新出漢字を調べることができたか。</p> <p>(関・意・態) ノート</p> <p>※場面を分ける根拠を見つけることができたか。</p> <p>(関・意・態) 発表, ノート</p> <p>※心に残った表現や場面、感想などを書いたり話し合ったりすることができたか。</p> <p>(関・意・態)</p> <p>(話すこと・聞くこと)</p> <p>発表, ノート</p>

I 戦争 の中 に生 まれ たゆ み子 と父 母の 心配	4	<p>・ゆみこが最初に覚えた言葉「一つだけちょうだい」の意味を話し合う。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>読みのめあて ゆみ子の最初にはっきりとおぼえた言葉が、なぜ「一つだけちょうだい」なのか</p> </div> <p>・お母さんとお父さんの思いについて書き込みをする。</p>	<p>○食料事情の厳しさを、強調の文末や疑問形の文末表現から考えさせ、最初にゆみ子がはっきり覚えた、最初の言葉の持つ意味を考えさせる。</p> <p>○本時より、授業の中に感想を書く活動を取り入れる。</p> <p>○両親の会話・行動・様子に線を引かせ、その時の思いを考えさせる。</p>	<p>※文末表現から、食料事情の厳しさと、「一つだけちょうだい」の言葉の意味を読むことができたか。 (読むこと) 発表、ノート</p> <p>※両親の会話・行動・様子に線を引き、両親のゆみ子に対する思いを書き込むことができたか。 (関・意・態) ノート</p>
	5	<p>・「1つだけよ。」と言い、ゆみ子になんでもあげるお母さんの思いを話し合う。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>読みのめあて 「一つだけ……。一つだけ……。」が、お母さんの口ぐせになったわけ。</p> </div>	<p>○自分の分からあげること、口ぐせになるぐらい頻繁にあげていることなど、全力でゆみ子を支えている母親の努力とゆみ子への愛情を、叙述に即して想像させる。</p> <p>○「～しまいました」の文章から本当は、言いたくないということに気づかせる。</p>	<p>※ゆみ子になんでも分けてあげる母親の思いを想像して読みむことができたか。 (読むこと) 発表・ノート</p> <p>※自分の考えと友だちの考えの相違点に気づき、話したり聞いたりすることができたか。 (話すこと・聞くこと) 発表・ワークシート</p>
	6 本時	<p>・ゆみ子をめちゃくちゃに高い高いするお父さんの思いを話し合う。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>読みのめあて どんな思いでお父さんは、ゆみ子をめちゃくちゃに高い高いしているのか。</p> </div>	<p>○深いため息の「深い」に着目させる。</p> <p>○会話文の「……」に着目させる。</p> <p>○「めちゃくちゃ」に着目させ、ゆみ子になんでも山ほどあげられない自分へのいらだちを読み取らせる。</p>	<p>※ゆみ子をめちゃくちゃに高い高いする父親の思いを想像して読むことができたか。 (読むこと) 発表・ノート</p> <p>※自分の考えと友だちの考えの相違点に気づき、話したり聞いたりすることができたか。 (話すこと・聞くこと) 発表・ワークシート</p>
II 父の 出征	7	<p>・大事なお米で作ったおにぎりをみんなゆみ子に食べさせてしまったお母さんの思いを話し合う。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>読みのめあて お父さんのために作ったおにぎりをゆみ子に全部あげてしまった時のお母さんの思いについて。</p> </div>	<p>○父親の出征の意味をとらえさせる。</p> <p>○「食べてしまいました」の言葉に着目させる。</p> <p>○「大事なお米で作ったおにぎり」を全部あげてまでゆみ子をあやす理由について考えさせる。</p>	<p>※戦争にいく父親に、ゆみ子の泣き顔を見せたくない母親の思いを想像し読むことができたか。 (読むこと) 発表・ノート</p> <p>※自分の考えと友だちの考えの相違点に気づき、話したり聞いたりすることができたか。 (話すこと・聞くこと) 発表・ワークシート</p>
	8	<p>・人ごみからはなれ、ゆみ子をだくお父さんの思いを話し合う。</p> <p>・必死でゆみ子をあやす両親の思いを話し合う。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>読みのめあて 人ごみからはなれてどんな思いでゆみ子をだいているか。(お父さん) ゆみ子を一生懸命にあやすお母さんの思いについて。(お母さん)</p> </div>	<p>○人ごみからはなれ、ゆみ子をだくお父さんの心情を他の人たちの対比で考えさせる。</p> <p>○会話文の「……」に着目させる。</p> <p>○「泣き出してしまいました」の「しまいました」に着目させる。</p>	<p>※家族を思い、戦争に行きたくないお父さんの思いを想像しながら読むことができたか。 (読むこと) 発表・ノート</p> <p>※ゆみ子の泣き顔を見たくない両親の思いを想像しながら読むことができたか。 (読むこと) 発表・ノート</p> <p>※自分の考えと友だちの考えの相違点に気づき、話したり聞いたりすることができたか。</p>

				(話すこと・聞くこと) 発表・ワークシート
	9	<p>・「一つの花」をゆみ子に渡し、その花をみつめながら何も言わずに行ってしまったお父さんの思いや願いを話し合う。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>読みのめあて なぜお父さんは、一輪のコスモスを見つめて行ってしまったのか。</p> </div>	<p>○「プラットホームのはしっぽの、ごみすて場のような所に、わすれられたようにさいていたコスモス」にこめられた父親の願いを想像させる。</p> <p>○「ゆみ子のにぎっている一つの花を見つめながら」「何も言わずに汽車に乗って行ってしまった」父親の気持ちを想像させる。</p> <p>○会話文の「・・・・」に着目させる。</p>	<p>※食べ物をほしがって泣き出したゆみ子に、一輪のコスモスをあげた父親の思い、願いを想像しながら読むことができたか。</p> <p>(読むこと) 発表・ノート</p> <p>※自分の考えと友だちの考えの相違点に気づき、話したり聞いたりすることができたか。</p> <p>(話すこと・聞くこと) 発表・ワークシート</p>
III	10 11	<p>・戦争中と十年後の場面の違いを読み取り、ゆみ子とお母さんがもつ、お父さんへの思いを話しあう。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>読みのめあて 十年後のゆみ子とお母さんはどのようにくらしているのか。</p> </div> <p>・お母さんからお父さんへ、ゆみ子からお父さんへ、それぞれになったつもりで手紙を書く。</p>	<p>○「お父さんとお母さん」「ゆみ子の家」「ゆみ子」「その他」の項目に分けて整理させる。</p> <p>○ゆみ子の一輪のコスモスがどうなったかに着目させる。</p> <p>○「～てしまいました。」の表現がこの場面になくことに着目させる。</p>	<p>※十年後のゆみ子と母親の幸せそうな姿を読み取り、二人の父親への思いを想像しながら読むことができたか。</p> <p>(読むこと) 発表・ノート</p> <p>※お母さんゆみ子それぞれの立場に立ち、お父さんへの思いを手紙に書くことができたか。</p> <p>(読むこと) 発表・ワークシート</p> <p>※自分の考えと友だちの考えの相違点に気づき、話したり聞いたりすることができたか。</p> <p>(話すこと・聞くこと) 発表・ワークシート</p>
読みを深める	12	<p>・題名の「一つの花」について話し合う。</p> <p>・時の移り変わりを表す言葉を使い短文を作る。</p>	<p>○物語の構成を確認する。</p> <p>○戦中・戦後を対比させる。</p> <p>○「一つの花」の変化から作品のテーマを考えさせる。</p> <p>○作者は、戦争を語りながら、何を伝えたいのかを考えさせる。</p> <p>○本文の中にある「時のうつり変わりを表す言葉を確認させる。</p>	<p>※物語の戦中・戦後を対比してまとめることができたか。</p> <p>(読むこと) 発表・ワークシート</p> <p>※「一つの花」の変化から作品のテーマについて考えることができたか。</p> <p>(読むこと) 発表・ワークシート</p> <p>※自分の考えと友だちの考えの相違点に気づき、話したり聞いたりすることができたか。</p> <p>(話すこと・聞くこと) 発表・ワークシート</p> <p>※時の移り変わりを表す言葉を使い短文を作ることができたか。</p> <p>(関・意・態) ワークシート</p>

5. 本時の展開 (6 / 12)

(1) 本時の目標

- ・自分の考えと友だちの考えの相違点に気づき、話したり聞いたりすることができる。
(話すこと・聞くこと)
- ・ゆみ子をめちゃくちゃに高い高いする父親の思いやゆみ子への願いを想像して読むことができる。
(読むこと)

(2) 本時の展開

時配	学習活動と内容	教師の支援○ 留意点・ 評価※	資料
3	1. 前時までの振り返りをする。 「一つだけちょうだい」の意味。 ゆみ子になんでも分けてあげる母親の思い。	・ 掲示物を見せながら、授業で読み取ったことの振り返りをする。	前時までの 掲示物
2	2. 学習のめあてを確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;">どんな思いでお父さんは、ゆみ子をめちゃくちゃに高い高いしているのか。</div>		
4	3. 本時の学習場面を音読させる。 (1 場面後半 ⑩～⑫)	・ 会話文の読み方を意識させ、登場人物の思いを考えながら音読するように助言する。	書き込みノ ート
5	4. 本時のめあてに対しての書き込みをする。 ・ 事前に書き込んだものを整理したり、読みのめあてに対しての新たな気づきを書き込む。	・ 事前に書き込みノートを回収して子ども達の書き込みに目を通しておき、子ども達の読み取ったことを事前に把握しておく。 ○ 書き込みができない児童には、「深いため息」や会話文に着目するように助言する。	
1 3	5. お父さんのことに関する書き込みを発表する。 「深いため息」 ・ ゆみ子を心配している。 ・ 「深い」とついていることから、それほど心配していて、悩んでいるのがわかる。 ・ どうすることもできない悲しい気持ち。 「この子は一生、～どんな子に育つのだろう。」 ・ ゆみ子の将来が心配。 ・ 食べ物を欲しがらだけのかわいそうな子になってしまう。 ・ このままでは、幸せに暮らしていけないのではないか。 ・ ゆみ子にたくさん食べ物をあげられない自分へのいらだち。 「そんな時、お父さんはきまって、ゆみ子をめちゃくちゃに高い高いするのです。」 ・ 必死に明るくしようとしている。 ・ 不安な気持ちをごまかしている。	・ お父さんの会話・行動・様子が書かれている文章を掲示物として黒板に貼ることで場面の読み深めるポイントを明確にする。 ・ 発表するときには、自分と友だちの考えの相違点が見えるように、スキルカードの言葉を使って発表させるようにする。 ○ 深いため息をついたことのお父さんの思いを想像できないときには、「深いため息をついて言いました」と「ため息をついて言いました」の文章を掲示物として違いを比べさせる。 ・ 会話文の父親の言葉からゆみ子に対する思いを考えさせる。 ○ 会話文からお父さんの思いを読み取れない時は、母親の思いを考える時に「・・・」に着目したことを助言する。 ・ 「大きくなってどんな子に育つのだろうか。」からお父さんは、ゆみ子がどんな子に育ってほしいか考えさせる。 ○ 「めちゃくちゃに高い高いしている時のお父さんの思いを想像できないときには、「めちゃくちゃに高い高いするのです。」と「高い高いするのです。」の文章を掲示物として違いを比べさせる。 ※自分の考えと友だちの考えの相違点に気づき、話したり聞いたりすることができたか。 (話すこと・聞くこと 発表)	お父さんの 会話・行動・ 様子が書か れた掲示物 スキルカー ド

1 2	<p>6. ゆみ子をめちゃくちゃに高い高いしている時のお父さんの顔は、どんな顔をしているかを考えワークシートに書き話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・笑顔である。理由は、ゆみ子をあやしているから。 ・かなしい顔をしている。理由は、会話文からもわかるように心配しているから。 ・無理して笑顔になっている。理由は、ゆみ子の将来が心配で不安ではないのだけれども、ゆみ子には笑っていてももらいたい。 ・かなしい顔をしないように必死になっている。理由は、不安な気持ちを必死にごまかし、自分にできる喜びをあげようとがんばっているから。 	<ul style="list-style-type: none"> ・いままでの話し合いを生かして理由を書くように助言する。 <p>○ワークシートに自分の考えが書けない児童には、「深いため息」と「会話文」での父親の思いを確認させ、ゆみ子に対するお父さんの願いを考えさせるようにする。</p> <p>※ゆみ子をめちゃくちゃに高い高いする父親の思いやゆみ子への願いを想像して読むことができたか。 (読むこと 発表・ワークシート)</p>	ワークシート
6	<p>7. 授業後の感想を書き発表し合う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・授業後の感想では、授業前と後での自分の考えの変化や読み深めたことを中心に書かせるようにする。 <p>※自分の考えと友だちの考えの相違点に気づき、話したり聞いたりすることができたか。 (話すこと・聞くこと 発表・ワークシート)</p>	